



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

| | |
|------------|---|
| Title | 公開研究会報告(fulltext) |
| Author(s) | 東京学芸大学附属国際中等教育学校研究部 |
| Citation | 国際中等教育研究 : 東京学芸大学附属国際中等教育学校 研究紀要(2): 21-22 |
| Issue Date | 2009-03-00 |
| URL | http://hdl.handle.net/2309/111836 |
| Publisher | 東京学芸大学附属国際中等教育学校 |
| Rights | |

公開研究会報告

研究部

はじめに

2007年度に開校した東京学芸大学附属国際中等教育学校は、これからの国際社会で活躍できる人材育成を大きな目標に掲げ、それに対応できるカリキュラム開発および実践、また、それに基づく教育研究および教育実習生指導を行っている。

本校に在籍している生徒は、日本の学校、海外の現地校やインターナショナル・スクール、日本人学校や補習授業校出身の生徒など、多様な学習歴を持ち、また、国籍も多様であることが特徴的である。また、本校のカリキュラムもこのような多様な生徒の特性を生かしながら、本校が目標とする教育を進めるための特徴的なものとなっている。開校2年目という歴史も浅く、実績も少ない学校ではあるが、2008年(平成20年)6月21日(土)に授業を公開し、広くご指導を仰ぎたく、公開研究会「未来を開く中等教育学校の学びのすがた」を実施した。当日公開した授業は以下の通りである。

| 公開授業 1 | | | | 公開授業 2 | | | |
|--------|-----------------|---------------------------------------|---------------------|--------|------|--|------|
| 教科等 | 内容 | 授業者 | 教科等 | 内容 | 授業者 | | |
| 1年 | LE (FOUNDATION) | Family | FLEMING Amanda | 1年 | 国際教養 | Myselffuture私たちの未来への提案 ～よりよいプレゼンテーションを目指して～ | |
| | LE (ADVANCED) | Pet Peeves | THORNE Calvin | | | | |
| | 社会 | プレ・イマージョン 「アフリカを感じよう！」 | 古家正暢 小松万姫 | | | | |
| | 化学基礎 | プレ・イマージョン 「プラスチックの不思議」 | 鮫島朋美 WOLFE Jason | | | | |
| | 情報・技術・美術 | MYP を意識した教科連携「情報伝達の工夫」 | 河野真也 | | | | |
| 2年 | LE (STANDARD) | Music | WARREN Linda | 2年 | 国際教養 | 新聞スクラップで、自分の学習テーマを発見する | |
| | LE (ADVANCED) | Logic | HAMMOND Troy | | | | |
| | 基礎歴史 | イスラームからとらえた世界 MYP ガイディングクエスチョンによる授業構成 | 秋山寿彦 | | | | |
| | 数学 | プレ・イマージョン 「数学・遊び・文化」 | 西村圭一 星野あゆみ | | | | |
| | | | | | 国際教養 | ボランティアをディベートする | 山根正博 |
| | | | | | 生物基礎 | HR授業で行うJSL指導を意識した顕微鏡観察 | 赤羽寿夫 |
| | | | | | 数学 | 数学・遊び・文化公開授業1の発展 | 西村圭一 |

ここでは、公開研究会の概要と、当日配布した冊子「未来を開く中等教育学校の学びのすがた」(A4版69頁)に掲載できなかった資料を追加し、公開研究会の紹介をしたいと思います。

公開研究会 アンケートをまとめて

MYP の理念、考え方を現在の日本の学校教育の中に取り入れていく意味を、感じ取る機会となりました。MYP プログラムの実施にあたり、教科間連携をどのようにすすめていくかということや今後の取り組みで示してもらえらば、多いに参考となります。評価のためのルーブリックや学習の目標となるガイディングクエスチョン等に関して指導計画の中で更に明確に位置づけられるようになることを期待します。

公開された教科、国際教養の学習において、生徒が主体的に学ぶ「参加型」の授業が展開されていたことや工夫された教材に基づき深く思考していこうとする生徒の皆さんの姿が印象的であった。特に、グループによるディスカッションやディベートなどの学習活動では、生徒一人一人が事前にしっかりと学習の準備をし、自分の意見を皆の前で発表できスムーズに進行ができていたと思われまます。

プレ・イマージョンの授業に参加したわけですが、第3学年から構想されている本格的なイマージョン授業へと移行していったときに、生徒が自分の考えや意見を英語による文章でまとめたり、口頭で発表し議論できるような力を高めていくための道筋が見えてくるようになることが課題と感じました。

また、プレイマージョン授業の位置づけとして単に英語で教科学習を行うということだけではなく、多様な気づきや見方を獲得する学習機会ととらえることも可能ではないかと感じました。

LEのADVANCED CLASSの授業は、外国の学校に来たような印象を受けましたが、日本国内の小学校から進学した生徒の英語力を英語とLEの学習によってどこまで高めることができるのか注目しています。

JSLの教科学習や日常的な新聞記事のスクラップ活動を取り入れた学習など生徒の学びを広い視野からとらえ教育研究に取り組んでいる点に特色が感じられました。

新しい教育課題へのチャレンジが、今後更に充実し成果として反映されることを望みます。

参加者所属一覧

当日は学校、教育機関、企業等多方面から約150名の参加をいただき、授業見学、分科会・全体会での示唆に富んだ活発なご意見ご指導を賜りました。この場を借りてご参加いただいた皆様に深く感謝するとともに、事前参加申し込みをいただいた方のみではありますが、参加者の所属機関をご紹介します。

(株)アイエスエイ、朝霞市立朝霞第一中学校、Benesse 子供英語教室、中央大学大学院、大東文化大学、ファイザー(株)、群馬大学、八王子地区中高一貫6年生学校(仮称)準備室、広島大学附属中高等学校、JOBA、上智大学、かえつ有明中・高等学校、神奈川大学、金沢大学、加藤学園暁秀中・高等学校、川崎市総合教育センター、啓明学園中学校・高等学校、北区立谷端小学校、国際基督教大学、駒澤大学、神戸大学発達科学部附属明石中学校、神戸大学発達科学部附属住吉中学校、公文国際学園中等部、名古屋国際中学校・高等学校、奈良学園登美ヶ丘中学校、ナタリス学院、練馬区立関中学校、日本大学、お茶の水女子大学附属中学校、(株)旺文社、立教大学、埼玉県立総合教育センター、尚綱学院中高等学校、玉川学園高等部、玉川学園中学部、東京学芸大学教職大学院、東京学芸大学附属小金井中学校、東京学芸大学、東京学芸大学附属大泉小学校、東京学芸大学附属世田谷中学校、東京都NIE推進協議会、横浜市立深谷中学校、横浜山手女子学園